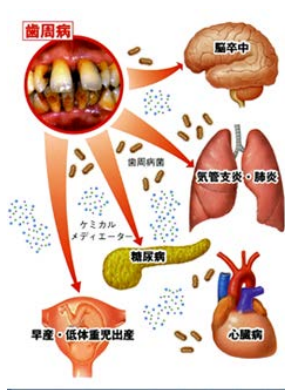


口腔衛生対策講座

☆こわ〜い 歯周病にならないために☆

6月7日（水）本校大会議室にて、口腔衛生対策講座が行われました。講師として、本校学校歯科医の毛利行雄先生をお招きし、4月の定期健康診断で「歯肉炎」と診断され、まだ治療が完了していない生徒と経過観察を指示されている生徒を対象（3年次生）として、ご講演いただきました。

今回の講座では、実際の口の中の写真やクイズなどから身近な健康問題としての意識付けや歯周病から起こる健康問題と、予防のための適切なブラッシング方法などについてご説明いただきました。『歯周病は予防できる！』こと、そのために今すぐに行動を起こしていくことが必要なのだと教えていただきました。今回の講座を通して、まずは早めに治療に行くこと、そして、自分自身の食習慣や歯みがきの仕方を見直し、改善を図っていくことの大切さに、改めて気付かされました。

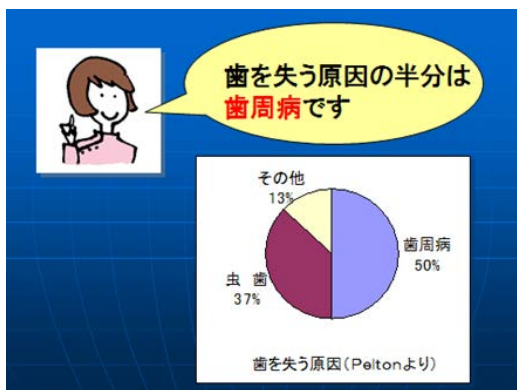


歯周病菌の全身への影響

歯周病菌が直接、あるいは歯周病の炎症物質の**ケミカルメディエーター**が**全身疾患**に関与する

＊ケミカルメディエーター：プロスタグランジン(PGE)、ヒスタミン、炎症性サイトカイン(IL-1,6,8 TNF-α)など

新・歯周病をなおそう (2008砂書房)より



それでは、自分の口の中を覗いてみよう！

健康的な歯肉

軽度の歯肉炎(GO)

腫瘍性歯肉炎は、見た目には腫れていて即ち歯肉腫、色は青白いピンク色で触ると感じはげっこです。歯肉炎になると、歯肉は腫れて隙は狭くなります、色は赤くなり、もっと腫れると痛くなります。触るとプツプツした感じで、出血することもあります。

進んだ歯肉炎(G)

学校歯科医の毛利先生より。



問題：この人は何の表彰を受けたでしょう？

(生徒感想より)

- 歯が痛かったり、冷たいものがしみたりして、自分の口の中はちょっとヤバイな、どうにかしないといけないなと思っていたので、お話を聞いて良かったです。まずは、治療を開始し、頑張って丁寧なブラッシングを心がけます。
- 歯周病は自分が思っていたよりも深刻で怖いものだと実感しました。しかし、意識して自己管理することで予防出来るものだという事もわかりました。日々の生活を振り返り、未来の自分の健康のために何が出来るか、何をすべきか考えるきっかけになりました。